

気管分岐部を閉塞する猫のポリープ型
扁平上皮癌に対し気管支鏡下に高周波
スネア切除およびアルゴンプラズマ凝固を
行い、長期QOL維持可能であった1例

相模が丘動物病院・呼吸器科
城下 幸仁

www.sagamigaoka-ac.com

我々獣医療では高周波気道内治療の報告がありません。情報や経験豊富な人医の先生方に御意見いただけると幸いに存じます。

症例

雑種猫

避妊済雌

11歳11ヵ月

体重 3.0kg

主訴:喘鳴、呼吸困難

www.sagamigaoka-ac.com

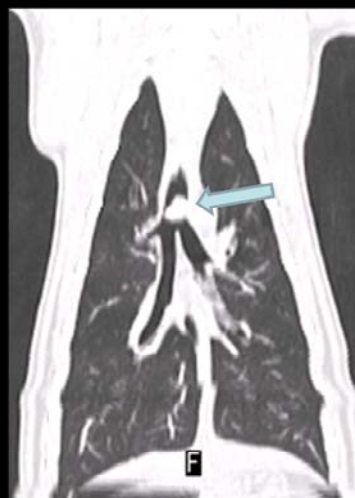
症例は、雑種猫、避妊済み雌、11歳11ヵ月齢、ヒト年齢ではおよそ64歳に相当します。体重は3.0kgでした。

主訴は、喘鳴と呼吸困難でした。

来院経緯および問診

2週間前より呼吸困難が次第に悪化し、5日前より食欲低下。前医CTにて気管分岐部気管内腫瘍と診断。気管支鏡下処置を希望され当院来院。

室内飼育
定期予防実施
同居動物なし

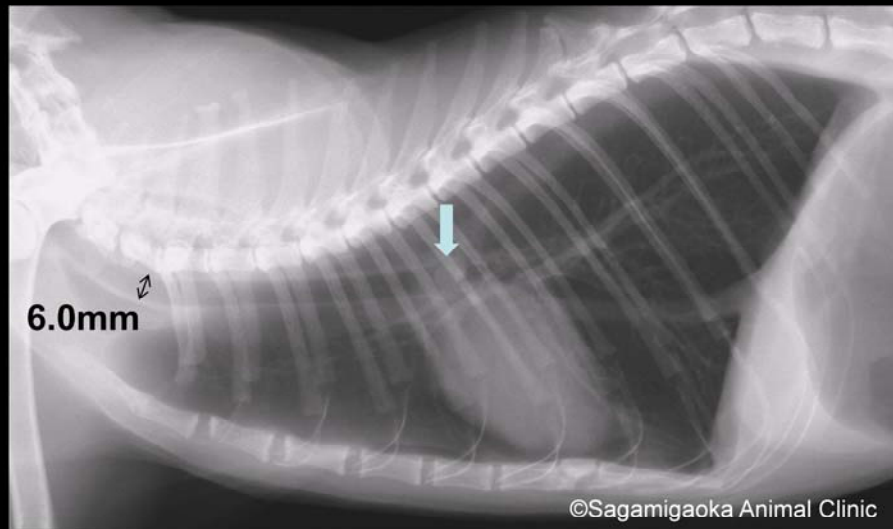


ファミリー動物病院 和田先生より
画像提供

www.sagamigaoka-ac.com

2週間前より呼吸困難が次第に悪化し、5日前より食欲低下し、前医CTにて気管分岐部気管内腫瘍と診断され、気管支鏡下処置を希望され当院来院いたしました。スライドに胸部CT所見を示します。気管分岐部にポリープ状病変が認められます。

DAY1



pHa 7.33, Paco2 49 mmHg, Pao2 91 mmHg, AaDo2 2 mmHg

www.sagamigaoka-ac.com

胸部X線にて気管分岐部にマス陰影および肺過膨張所見がみられ、Paco2 49mmHgと高炭酸ガス血症を示していましたが、AaDo2 2mmHgと正常であり中枢気道閉塞による肺胞低換気を示しておりました。この猫の気管内径は6.0mmでした。

DAY1



©Sagamigaoka Animal Clinic

www.sagamigaoka-ac.com

異物または腫瘍を疑い、全身麻酔下に気管支鏡検査を行いました。

(ビデオ供覧)

そのときの所見を供覧します。気管分岐部に、表面凹凸不整、表在血管に乏しいポリープ状病変が認められ、気管をほぼ閉塞しておりました。ポリープの基部を確認し、高周波スネアで出力20-27Wで切除し、残った部分をホットバイオプシー鉗子を用い出力25Wで凝固させながら少しずつ切除し、気管分岐部の開存を得ました。

DAY2

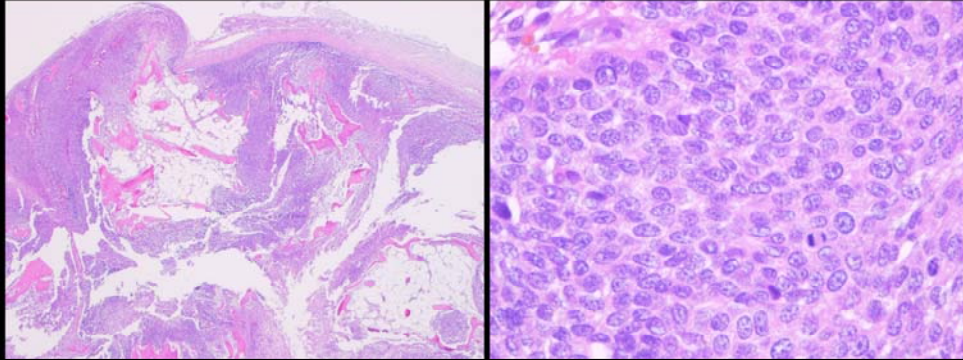


pHa 7.43, Paco2 35 mmHg, Pao2 91 mmHg, AaDo2 17 mmHg

www.sagamigaoka-ac.com

ポリープ状病変切除後の胸部X線所見です。気管分岐部のマス陰影は消失しました。肺容積は減少し、血液ガス値は正常となりました。処置後、呼吸症状は著明に改善しました。

低分化型の扁平上皮癌



小胞巣状の増生巣を形成して浸潤
角化巣の形成は不明瞭

www.sagamigaoka-ac.com

ポリープ状病変は、病理組織学的に低分化型の扁平上皮癌と診断されました。猫での詳細な症例報告は乏しく、このまま様子観察いたしました。

病理組織所見

扁平上皮癌(Squamous cell carcinoma)

- > 悪性腫瘍性病変である扁平上皮癌の浸潤性増生が認められました。
- > 組織の大部分に及ぶ不規則な癌増生巣が形成され、癌増生に伴う炎症に
- > 起因した反応性の骨増生も認められています。核小体明瞭・クロマチン
- > 豊富な卵円形異型核と好酸性の細胞質を有する癌細胞は、不規則な胞巣
- > を形成して密に増生しています。
- > 核分裂像が多数認められ、角化傾向および角化巣の形成はいずれも不明
- > 瞭な低分化型の扁平上皮癌です。
- > 検索した範囲内では脈管侵襲は見い出されないが、腫瘍境界は不規則・不明瞭で、局所再発が考えられます。

DAY33



©Sagamigaoka Animal Clinic

www.sagamigaoka-ac.com

33日後、2回目の気管支鏡検査を行いました。

(ビデオ供覧)

そのときの所見を供覧します。わずかにポリープの茎部が残存していたのでそれに対しAPC処置を出力20Wで施しました。

DAY33-220

根治的外科切除実施せず

カルボプラチン150mg/m² IV
嘔吐、食欲不振生じ、単回のみ

NSAID

ピロキシカム0.3mg/kg PO q48h
→メロキシカム0.025mg/kg PO q24h

220日後、CTにて局所再発なし

www.sagamigaoka-ac.com

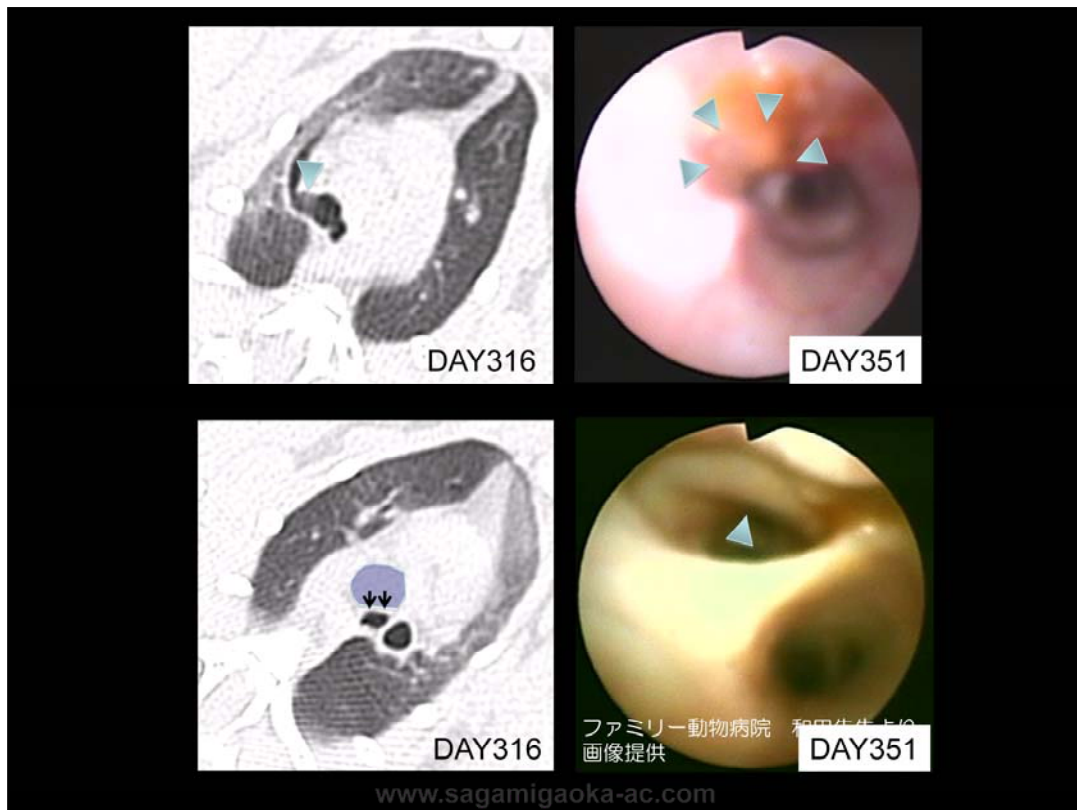
その後の経過です。

根治的外科切除はリスクを考慮し実施しませんでした。

カルボプラチン投与を一度行いましたが、嘔吐食欲不振が生じ、2回目以降行いませんでした。

猫口腔内扁平上皮癌に対し部分的にNSAIDが有効であるとの報告から、ピロキシカムまたはメロキシカム内服のみ継続しました。

220日後の胸部CT検査にて局所再発を認めず、一般状態も良好でした。



316日後の胸部CT検査にて、局所再発を疑う所見と付属リンパ節増大による管外圧迫所見がみられ、351日後の3回目の気管支鏡検査でCTに一致する所見が認められました。局所再発は気管を閉塞するに至りませんでしたでしたが再びAPC処置しました。

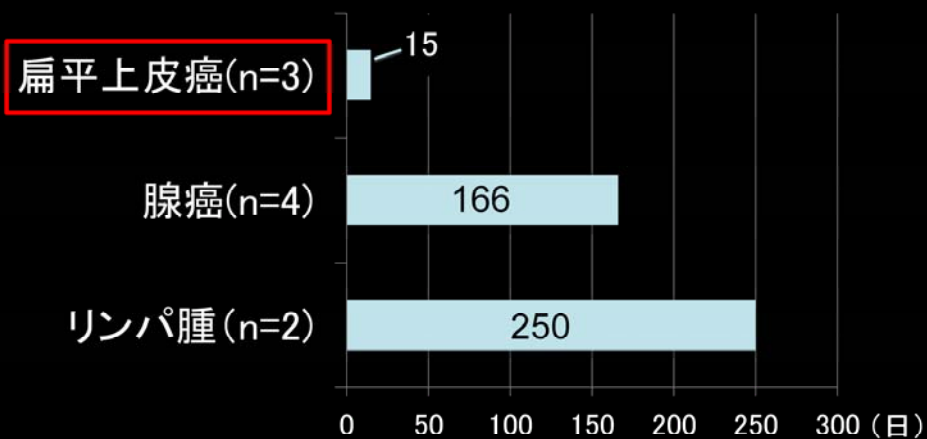
DAY446

急性呼吸困難のため、安楽死
前日まで自宅で生活可能であり
十分なQOLを維持した

www.sagamigaoka-ac.com

しかし446日後、急性呼吸困難のため安楽死となりました。前日まで自宅で生活可能であり、十分なQOLを維持できました。

猫気管癌の平均生存期間

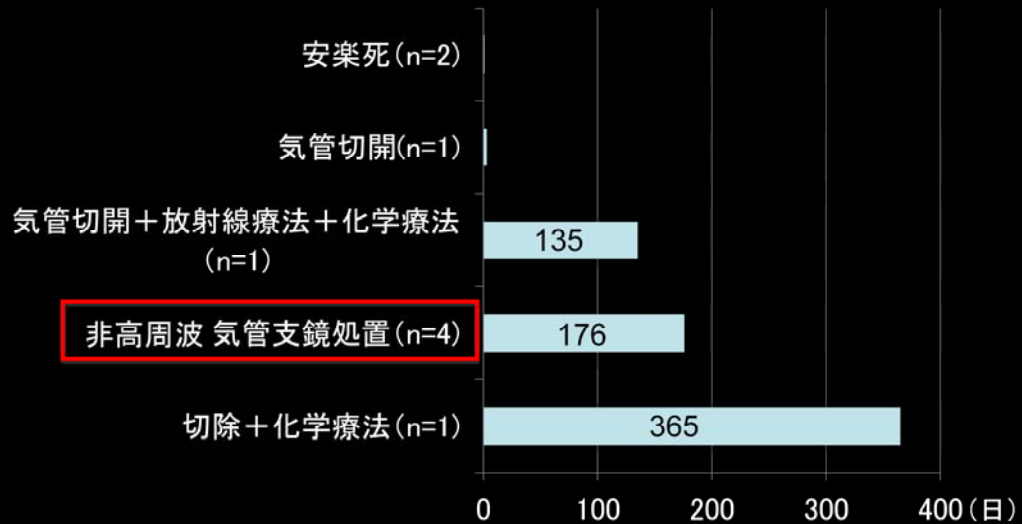


[文献] Clifford CA, Textbook of Respi Dis in Dog&Cats.,2004 城下幸仁, 第29回動物臨床医学会年次大会, 2008
Jakubiak MJ, J Am Anim Hosp Assoc, 2005 Queen EV, J Vet Intern Med., 2010

www.sagamigaoka-ac.com

猫気管癌の報告は演者の調べたところ4報で計9例しかありませんでしたが、参考までに本症例と比較しました。平均生存期間は、扁平上皮癌の場合わずか15日だったと報告されています。本症例はこれより十分に長く生存しました。

猫気管癌の処置後平均生存期間



[文献] Clifford CA, Textbook of Respi Dis in Dog&Cats.,2004 城下幸仁, 第29回動物臨床医学会年次大会, 2008
Jakubiak MJ, J Am Anim Hosp Assoc, 2005 Queen EV, J Vet Intern Med., 2010

www.sagamigaoka-ac.com

様々な処置別にみると、非高周波気管支鏡処置を行った4例は、平均176日生存したと報告されています。これらは通電せず単純にスネアワイヤで切除したものです。本症例はこれより長い446日間生存しました。高周波処置は腫瘍の局所再発を遅らせ生存期間を延長させるかもしれません。

結語

- ・ 猫の気管分岐部ポリープ型扁平上皮癌に対し高周波気道内治療を行い、446日間（約1年3ヵ月）生存した1例を経験した。
- ・ 猫気管癌の従来報告に比し、長期間QOLを維持できた貴重な症例と考えられた。

www.sagamigaoka-ac.com

結語です。

猫の気管分岐部ポリープ型気管扁平上皮癌に対し高周波気道内治療を行い、446日間生存した症例を経験しました。これは人でいえば、約5年に相当します。

猫気管癌の従来報告に比し、長期間QOLを維持できた貴重な症例と考えられました。